

## 安心して働きたい

法律事務所職員 磯嶋 みさ子(仮名)

法律事務所に勤めて24年、今の職場は3つ目だ。  
好む好まざるにかかわらず否応なしの転職だった。  
法律事務所は、つくづく不安定な職場だと思う。

### ◇◇◇ 畑違いからの就職

1980年3月、語学の専門学校卒業を間近に控え就職の決まらなかった私は、叔父の「今度、知り合いのA弁護士が、共同事務所から独立して法律事務所を構えるから働いてみるか」の言葉に、一も二もなく飛びついた。A弁護士は、昼間働きながら夜学に通い司法試験に合格した方で、真面目だが、事務所経営には余り頓着していないようだった。

全くの畑違いから初めて就職した私は、裁判所からの電話もチンプンカンプンで、「犠牲(擬制)陳述」「即時広告(抗告)」etcの世界だった。弁護士に実務的なことを聞くと、「裁判所に聞いて」と言われ、問い合わせるにも何をどう聞いていいかも分からない状態だった。その後、知り合いのベテラン事務員さんに聞いたり、業務研修会やハンドブックを頼りに実務経験を経て、徐々に仕事にも慣れてきた。そうすると、仕事が面白くなり、法律事務所の事務員としての自覚ややりがいも出てきた。

### ◇◇◇ 否応なく2度の転職

ところが、事件は6年目の初冬に起こった。もともと余りマメに連絡を入れてくる弁護士ではなく、その兆しはあったが、ある日突然、全く事務所に出て来なくなり、連絡もつかなくなってしま

ったのである。裁判所や依頼者からの電話の対応にも困る日々だった。そして数日後、やっとA弁護士は見つかったが、病気のため入院し、事務所は閉鎖となった。退職にあたっては、仕事を引き継いでくれた同期の弁護士と交渉したが、結局、冬のボーナスだけで退職金はもらえなかった。唯一の救いは、事務所都合の退職だったため失業保険がすぐに給付されたことくらいである。

幸いにも拾う神があり、翌年明けから別の法律事務所に就職できた。2度目の事務所は弁護士と事務員が2名ずつの規模だったが、徐々に増員し15年後には10名になった。仕事も何とか一通りこなせるようになり、私はこのままずっと働き続けられると思っていた。しかし、弁護士が1人独立するに際し、私も一緒に新事務所に移らざるを得なくなり、またまた、1人職場になってしまった。

### ◇◇◇ 将来を見通せない不安

最近、事務所分散の話をよく耳にする。弁護士が病気になったら、事務員は即、路頭に迷ってしまう個人の事務所だけでなく、弁護士が複数名いる中規模事務所でも、将来を見通せない不安定な職場が増えてきているようだ。こんなに経営者の入れ替わりが激しい職種は、他にあるだろうか？「司法改革」と関係しているのだろうか？

国民の権利と財産を護る法律事務所の一員として、もう少し安心して働きたい。